

第4回 札幌市住まいの協議会 民間住宅部会 議事要旨

(1) 日時

平成28年10月27日(木) 10:00～11:00

(2) 場所

札幌すみれホテル 3階 ヴィオレ

(3) 次第

- 1 開会
- 2 審議
 - (1) 答申(案)について
 - (2) 次のスケジュールについて
- 3 閉会

(4) 出欠状況

(出席)

岡田	直人	北星学園大学社会福祉学部 教授
齋藤	寛子	公募委員
高橋	聡	(社)全国賃貸住宅経営者協会連合会 北海道支部 事務局長 (財)日本賃貸住宅管理協会 北海道ブロック 事務局長
奈良	顕子	(財)北海道建築指導センター 住宅相談員
畑山	律子	高齢者住まいの相談・情報センター あんしん住まいサッポロ 相談員
部会長	森 傑	北海道大学大学院工学研究院 教授

(5) 傍聴人

1人が参加(記者)

(6) 議事要旨

- ・答申の表題に「安心・安全な住まいのあり方について」と書かれている一方で、P9「2(3)」は、「安全」と「安心」の順番で書かれているので、表題もその順に揃えるとよいと思う。
- ・箱物として住まいを提供するという点については、内容的に十分書かれている一方で、社会福祉の視点から考えると、箱物を提供するだけで解決しないこともあると思う。住宅確保要配慮者を支援の窓口連れて行く人など、可能であれば支援者の存在が不可欠であることも盛り込んでいただきたい。
- ・P7「1(1)市営住宅と民間住宅双方による住宅セーフティネットの充実」に記載されている、「福祉部局とより一層連携を図りながら」について、どのような点で連携するかについて加えると、理解がより深まるのではないか。
- ・P9「2(3)安全・安心な市営住宅への再生」に記載されている「平均化」という言葉は、「平

準化”が正しいのではないか。平均化というのは、事業費の高低に関わらず、変動したものを平均することだと思うので、あまり意味を成さないのではないか。書かれている背景を教えてください。

→これまでは“平準化”という言葉を使用していたが、市営住宅部会において、わかりにくいのではないかという指摘があり、“平均化”に置き換えた経緯がある。どちらが伝わりやすいかということかと思う。(事務局)

- ・表現を変えて、今後の年間事業費を具体的にどのようにするのかという記載方法もあるのではないか。
- ・P4「3. 市営住宅に係る入居制度の適切な運用」に記載されている、“市営住宅入居後に収入超過となった世帯が入居世帯数の約9%存在”というデータが、いつのものなのかがわからないので、時期の分かる表現を記載してはどうか。
- ・セミナーに参加した際、夜にひとりであるのが不安、ケアや食事付きのところに入りたいなどの理由で、市営住宅から1ヶ月7万5千円くらいで住めるサ高住や有料老人ホームなどに住み替えたいと言われたが、その額では紹介が難しい。年金だけで生活している高齢者の中には、一人で住めなくなった場合にどうしていくか心配に感じている人が多くいる現状を伝えたいと思う。
- ・今の話は、公営住宅に入っている間は家賃設定に問題はないが、サービスを含めて考えると、負担できる金額との間に大きなギャップがあるということだと思う。今回の住宅マスタープランに反映できるかは難しいところはあると思うが、連動した住まいのサポートのようなものは今後の施策の考え方として非常に重要なポイントになると思う。
- ・震災時に支援活動を行った際、仮設住宅から復興住宅に移ることがスムーズにできない人がいた。理由として心理的なものと金銭的なものがあるが、人生における生活の連続性について、社会福祉的にも住環境的に考えていくという指摘は継続して議論できる環境があると望ましいと感じた。
- ・委員として参加しているまちづくりの事業検討部会の資料に「住宅部局と連携」とあったが、他部局の資料などと文言を合わせると、関連が分かりやすくなるのではないか。

→答申(案)をまとめる中で、関係部局への相談・情報提供を行っている。今後住マスをまとめる過程でも協議・調整は行い、きちんと連携が図れるようにしたい。(事務局)

以上